

1 単元 東北地方 ～交通や通信を中核として～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、中国・四国地方の学習において、交通・通信を中核とした考察を経験している。そこでは、空間的相互依存作用をうまく活用しながら、他の地域との結びつきや近隣地域との相互補完の作用について関連付けるといった活動をしてきた。しかし、交通網が発展すれば人口が集約するといったように、交通網の発展と人々の生活について安直に考え、他の事象やそこで生ずる課題と関連付けながら、構造的に理解することができていない子どもが少なくないように思える。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は、東北地方について、他地域よりも整備が遅れていた交通網が整備されたことによる発展の流れを中核として考察し、東北地方での産業や人口や都市・村落などに関する事象と関連付けて様々な視点から考察をする教材である。その中で、他の地域との結びつきや、相互補完の作用といった、「地理的な見方・考え方」を働かせる。この地理的な見方・考え方のうち、空間的相互依存作用を活用する場面を授業者が明確に位置付けることを大切にし、生徒自身の力で見方・考え方を選択・判断することができるようにしたい。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 第一次では、子どもの疑問に基づいて単元を貫く課題を設定する。そうすることで、交通・通信を中核として考察していくことを意識付けることができるようにする。
- 第二次では、交通・通信を中核としながら考察する。そうすることで、産業や人口や都市・村落などに関する事象と関連付け、多面的・多角的に考察していくことで東北地方の地域的特色について明らかにすることができるようにする。
- 第三次では、東北地方の地域的特色について整理する場を設定する。そうすることで、地方の一般的共通性と地方的特殊性について分析し、東北地方の地域的特色についての自分なりの解釈を見直すことができるようにする。

3 目標

- (1) 東北地方の地域的特色について、「交通・通信」を中核として考察する活動を通して、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目しながら、他の事象やそこで生ずる課題と関連付けについて理解する。（知識及び技能）
- (2) 東北地方において、交通網の発展によって、人々の生活にどのような変化が見られるのかという課題に対して、他地域との結びつきや、人々の生活の変化に着目して、東北地方での産業や人口や都市・村落などに関する事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 東北地方の地域的特色の考察に進んで関わり、探究していく活動を通して、地域の課題について考察しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

4 well-beingにつながる学びについて

本学園では、well-beingを「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-beingの実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えている。

本学園の社会部では、社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする子どもを育成する授業が、教科の本質に迫る授業だと捉えている。また、エージェンシーを発揮している姿を、課題の解決に向けて社会的な見方・考え方を働かせ、よりよい選択・判断をすることを通して自己の解釈を形成しようとする姿だと捉えている。本単元においては、交通網を中核とした考察を行うことによって、地理的な見方・考え方の空間的相互依存作用が中心となって活用する場面が多くなる。見方・考え方を位置付けることによって、子ども自身の力で探究のために見方・考え方を自在に使う姿こそがエージェンシーを発揮した姿であると考えている。

このような学習を経験した子どもは、自身の力で多角的に社会的事象を分析することを可能にし、よりよい社会に向けて様々な場面で主体的に課題解決へと向かう素地を養うようになり、well-beingの実現につながるだろう。

5 指導と評価の計画（総時数 6時間）

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	評価規準・評価方法等
一 ①	○ 単元を貫く学習課題を「交通網の発展によって、人々の生活にどのような変化が見られるのか」に設定する ・東北地方の自然環境の概観 ・交通網の整備の歴史 ・中核都市と地方との格差	○ 子ども自身の力で中核となる考察方法を決定させる活動を通して、本単元で中心となる考察方法について分析することができるようにする	[主体的に学習に取り組む態度] ・交通網に注目して、東北地方の問いを見出したり、予想したりしている
二 ④ 本時 ④	○ 東北地方における伝統行事や文化について考察する ・伝統行事発展の要因の分析 ○ 東北地方で行われている農業の工夫について考察する ・利益率向上に向けた工夫 ○ 東北地方で果樹栽培が盛んに行われている要因について考察する ・他地域との差別化を図る各地域の工夫 ● 東北地方における工業の発展要因について考察する ・企業による工場立地の意図	○ 見方・考え方を活用する場면을授業において授業者が意図的に設定する ①発問に位置付ける ②探究活動の中 ③資料の提示 ④振り返り ○ 子どもの予想を適宜見直すことで、自分たちの解釈の変容を可視化させる	[思考・判断・表現] ・交通網の発展が地域に与える影響について、多面的・多角的な考察を行うことができている [主体的に学習に取り組む態度] ・必要な資料や情報について、自分から提案することができる
三 ①	○ 東北地方の地域的特色について交通・通信を基に整理する ・学習の関連性の整理 ・持続可能性について考察	○ 既習の内容を新しく学ぶ内容と結びつけ、別の視点から地域的特色を理解させることで、理解を深め、これまでの考察結果を価値付ける	[知識・技能] ・東北地方の地域的特色について理解することができている ・交通網の発展が地域に与える影響について、多面的・多角的な視点から理解している

6 本時案 ー第二次・4時分ー

- (1) 主眼 東北地方における工業の発展要因について考察する活動を通して、企業による工場立地の意図について説明することができる。
- (2) 準備 なし
- (3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	
1 東北地方における工業出荷額の推移を確認する どうして東北地方では工業が発展するようになったのだろうか ・本時の学習への見通し 2 東北地方における工業の発展要因について考察する 東北地方に第二次産業が育たなかったのはなぜか ・歴史的背景 どうして、東北地方の工業出荷額は大きく成長したのだろうか ・年度別工業製品出荷額 ・年度別主要立地 ・交通網発展の推移	ア 東北地方に、自動車の関連企業などが多く進出するようになっている イ 元々、東北地方で工業が盛んではなかったのはなぜだろうか ア 明治時代に、政府と対立をしていたから、工場が建設されなかったのではないか イ 東北よりも北海道の開拓に力を入れられたからではないか ウ 東北地方に工場を建てるほどの魅力を感じなかったから ア 自然環境による影響を技術的な面で克服したから イ 交通網の整備によって、輸送が行いやすくなったから ウ 地価が他地域よりも安く、工業団地を形成しやすかったから エ 半導体などの新しい産業の発展とともに成長している	・東北地方における工業発展の経緯についての仮説を立てることで、本時の学習の見通しをもつことができるようにする ・必要な資料・情報を予想させ、生徒の要望に沿った資料を配付することで、生徒の探究活動を促すことができるようにする ・企業が既存の工場の周辺ではなく、東北地方に進出するようになったことを提示し、課題意識を高めることができるようにする	5 15 28 42 50
3 企業による工場立地の意図について考察する 東北地方へ企業が進出するようになった一番の要因は何か ・工場集約の特性 ・立地条件の変化	ア 交通網の整備が行われたから イ 工業が発展している地域よりも土地が安いから ウ 工業が発展している地域よりも労働力が安価だから エ 電力供給地に近いから	・現在、工業立地で企業が最も重要視している点を選択し、議論させる活動を通して、工業の立地条件が時代の流れとともに通用しなくなっていることに気付くことができるようにする	
4 本時で学習した内容を基に、これからの社会について考察する 次に工業が発展すると考えられるのはどこか（今後、工場が立地しなくなると予想されるのはどこか） ・工業立地の変容 ・産業立地論	ア 既存の工場が老朽化した場所を活用して工場が建つと思う イ 農村部の過疎化を活用して、工場が建っていくのではないか ウ ICなどの高価で軽量なものの価値が高まるなかで、電力が必要になるため、水力発電のできる施設の近くに立地するはずだ	・立地条件について再度整理する活動を通して、工業立地論から産業立地論へと変化している点に気付くことができるようにする	

(4) 評価規準と方法

東北地方における工業の発展要因について、多面的・多角的な視点から考察することができるか、ノートの記事からみとる。

<メモ>